

一晩明けた朝、生徒たちの表情をうかがうと、みんなそれぞれ笑顔で昨夜の食事や家の様子など情報交換。今日からはホストファミリーも加わって大型バスの中はほぼ満席状態。そして、ワシントンDCの市内見学へ。リンカーン記念堂、ホワイトハウス、スミソニアン航空宇宙博物館、連邦議会堂、大聖堂など米国の政治・歴史・文化の中核や拠点を成している建造物の外観や広々とした内部を見学し、テレビでしか見たことのない光景を目の当たりにし、そのスケールの大きさに圧倒される。特に、スミソニアン航空宇宙博物館では人類が初めて月面に降り立ったアポロ11号や、月の石にも触れられ、帰国してすぐ当時のアームストロング船長の訃報を聞き、「1人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ」と語ったその歴史的な場面と少しでも接触できたことに深く感激をしている。

3日目と4日目は土日のため、生徒たちはホストファミリーと丸2日間過ごすことに。どんな2日間になるのか…不安げな生徒や心待ちにしてニコニコしている生徒たちを見送る。体調には気をつけ、楽しく過ごしてほしいと。

さて、土日をホストファミリーと過ごした生徒たち、果たしてどんな顔で現れるのか?…一様にみんな楽しく過ごせたようで、明るい顔・顔・顔。ただ、日本語が恋しかったのか、バスの中での会話が弾む。



その日の午後は、今回の研修のもう一つの大きな目的であるホロコースト記念博物館へ。最初に、幼い頃に祖父母や父母たちと一緒にナチスドイツからの迫害から逃れたJill Pauleyさんと通訳のYoko Spaulding（日本人）さんのお話を伺い、当時の悲惨な様子に心を痛めながら、その後の写真や資料の展示、フィルム映像などを見て回った。私は、以前ドイツ・ミュンヘンにあるダッハウ収容所を見学したことがあり、その異様なまでの建物の内部や犠牲者の遺物、実際に処刑されたガス室や処刑台等を見た記憶が思い出された。このようなことが過去に本

当に起こったんだという思いと二度とこうしたことを起こしてはならない、という思いが強くなり、残酷なフィルム映像の横に記してあった『杉原千畝』という名前を見つけ、そんな暗黒な時代の中で多くのユダヤ人を救った人の偉大さを改めて感じる事ができた。

ワシントンDCでの最終日となる6日目。我々の滞在先WoodbridgeにあるGar-Field Senior High Schoolへ。2,500人の生徒を抱える同校の校長と対面。その後、同校の警備員（Security）のRussel氏の案内により校内を見学。日本の中でも有数の大学のように施設設備が充実しており、何かにつけて規模も大きい。16歳から自動車の免許が取得できるため、生徒用の駐車場も含めて広大な敷地、また、校内はどの部屋も夏休みとは言え冷房バッチリで、非常に綺麗にしてある。託児所もあり、教師の子どもだけでなく、生徒（高校生ですよ!）の子どもも預かっているようである。さすが米国…敷地だけでなく心も広い?



午後4時頃からはJAPAN NIGHT PARTYの準備のため、会場となる近くの教会へ。お世話になったホストファミリーに喜んでもらえるよう、会場の設営や出し物の打合せなど、生徒たちも一生懸命。そしてまた緊張のときを迎える。午後6時過ぎからいよいよパーティーの始まり。最初に食事会。ピザやサラダ、デザートなどホストファミリーの手作りやデリバリーなどによって、量も半端じゃない。40分ほど食事を



取った後、生徒たちの出し物の本番を迎えた。宮ノ腰さんの進行により、あやとり・折り紙・習字をそれぞれ代表の生徒が説明し、ファミリーたちに生徒一人ひとりが英語を駆使しながら手取り足取り教えている姿…これには見ている我々も感動し、自然とシャッターを押し続けていた。特に心配したあやとりが好評で盛り上がり、また思いもかけぬ浴

